



(136)

(2022年10月27日付・下野新聞1面)

記事は加工しています

高校生向け 年組

「家族を世話」全国上回る

ヤングケアラー 県が初調査

小学生12%

中学生8.2%

高校生5%

相談2割、潜在化しやすく

調査は7月、県内の小学6年、中学2年、高校2年の計約5万2千人に実施した。「世話をしている家族がいる」と回答した小6は、0.9割上回った。

世話をしている家族が1割もそれだけ2.5割、5.7%、高2(同4.1%)、高3(同3.5%)が「見守り」が目立った。世話をしている相手は複数回答で聞いたところ、「きょうだい」「母親」の順に割合が高く、内容は「家事」と答えた。

大人に代わり家族の介護や世話を日常的に担っている「ヤングケアラー」について県が初めて行った実態調査で、「世話をしている家族がいる」と答えたのは小学生で12.0%(8人に1人)、中学生で8.2%(12人に1人)、高校生で5.0%(20人に1人)に上ったことが26日までに分かった。いずれの割合も国の調査結果を上回った。このうち、家族も含めて相談した経験があるとした児童生徒は約2割にとどまり、潜在化しがちな実態も浮き彫りになった。

(田崎智亮) 2面に関連記事

児童生徒が家族の世話をする頻度

※県のヤングケアラー実態調査結果から作成

学年(回答者数)	ほぼ毎日	週3-5日	週1-2日	1カ月に数日	その他・無回答
高校2年生(623人)	37.4	12.7	12.5	9.5	28
中学2年生(1122人)	35.3	16.1	15.4	10.4	22.7
小学6年生(1748人)	33.8	20.1	17.3	9	19.7

0% 20 40 60 80 100

設問

【1】記事に照らして、ヤングケアラーとはどのような人のことですか。

【2】記事に照らして、ヤングケアラーの実態調査について、正誤を○×で答えてください。

- ①「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒の割合は高校2年生が最も多い
- ②「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒のうち、週1～2日の頻度と答えたのは小学6年生が最も多い
- ③「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒の割合は、小・中・高すべてで国の調査結果を上回った
- ④家族も含めて相談した経験があるとした児童生徒は1割にとどまっている

【3】記事に照らして、本県と国の調査結果の比較について、正誤を○×で答えてください。

- ①「世話をしている家族がいる」と回答した小学6年生は国の結果の2倍以上である
- ②「世話をしている家族がいる」と回答した中学2年生と高校2年生では、国の調査と比べて本県の高校2年生の方が上回っている割合が高い
- ③「世話をしている家族がいる」と回答した本県の中学2年生の割合は国の調査結果の1.5倍以上である
- ④「世話をしている家族がいる」と回答した本県児童生徒の割合は年齢が高くなるにつれて減少傾向にある

【4】記事に照らして、世話をしている相手や

とも「ほぼ毎日」が約35%で最も多かったが、国の結果と比べると約10～20%低かった。世話をしている頻度が高いほど、1日のうち世話に長時間を費やす傾向も見られた。

相談経験がある「回答した児童生徒のうち、家族以外に相談したのは全体の半数に満たなかった。理由は「相談するほどの悩みではない」との答えが6割を占めた。

県は学校向け調査も実施。「ヤングケアラーに該当する子がいる」と答えた小学校は21%、中学校は36%、全日制高校は41%だった。一方で「外部の支援につないでいない」との回答は小中学校で4割、高校では8割に達した。

県は有識者の意見や分析を踏まえ、適切な支援に向けた施策を決める方針。福田富一知事は「家族が病気で、通常の家事などが混在していないかなど調査結果の分析をした上で、支援について検討を進める」と述べた。

内容の解答について正誤を○×で答えてください。

- ①世話をしている相手は「きょうだい」・「母親」の順に割合が高い
- ②世話をしている内容は「家事」・「見守り」が目立った
- ③世話をしている児童・生徒の半数以上が、睡眠や勉強の時間が「取れない」「足りない」と答えた
- ④世話を「ほぼ毎日する」頻度は国の結果と比べると約10～20%低かった

【5】記事の内容と、下線部①・②・③の状況を踏まえて、あなたはヤングケアラーについて、何が課題でどのような対策が必要だと思いますか。100字程度で自由に論じてください。